旧約聖書講解シリーズ

伝道者の書
雅歌

J・B・カリー

Ecclesiastes & Song of Solomon

An Exposition

by

James B. Currie

旧約聖書講解シリーズ

伝道者の書・雅歌

J・B・カリー　著

An Exposition of

Ecclesiastes

and

Song of Solomon

by

James B. Currie

Publishers

John Ritchie Ltd.

Kilmarnock, Scotland

Evangelical Publishers

Tokyo, Japan

目

次

伝道者の書

はじめに ―― 9
第一章　目的のない「人の存在」 ―― 22
第二章　利益のない「人の労苦」 ―― 39
第三章　取り除けない「人の苦しみ」 ―― 55
第四章　避けられない「人の運命」 ―― 70
第五章　満足を与えない「人の富」 ―― 81
第六章　保証のない「人の繁栄」 ―― 92
第七章　分別のない「人の行い」 ―― 99
第八章　矯正できない「人の邪悪」 ―― 116
第九章　評価されない「人の救い」 ―― 129
第一〇章　限度のない「人の愚かさ」 ―― 142
第一一章　推賞できない「人の怠惰」 ―― 154
第一二章　回避できない「人の老衰」 ―― 162

雅歌

1 要約 177
2 背景・解釈・概要 182
3 対話と登場人物 188
4 考察のポイント 193
5 一章一節・一章三節 198
6 一章四節・一章一一節 207
7 一章一二節・一章一七節 216
8 二章一節・二章七節 223
9 二章八節・三章五節 231
10 三章六節・四章一五節 246
11 四章一六節・六章一三節 266
12 七章一節・八章四節 295
13 八章五節・八章一四節 308

序文

この「伝道者の書」と「雅歌」の注解は、学識ある神学者向けのものではない。学識者たちの注意を引くためにこのような注解書を著すことは、著者の能力をはるかに超えている。しかし、ここでは欽定訳聖書の一般の読者を対象に、また、同じような日本の読者への翻訳を想定しながら、ささやかな研究が進められており、読者が何らかの益を得ることができるように祈りと願いが込められている。多くの洞察と深い助言については、それを与えてくれた数々の著作家たちの功績に負うところが多い。これまで「伝道者の書」にしても「雅歌」にしても、注解という観点から注目されたことは（特に日本語においては）ほとんどなかった。ここでは、多少なりともその意味を明確にすることによって、その溝をいくらかでも埋めようとしている。その試みがどれほど達成されたかについては、読者自身のご判断にゆだねたい。

著者の真摯（しんし）な願いは、英語を、また日本語を話す多くの信者たちが、「聖徒にひとたび伝えられた信仰」（ユダ3）によって築き上げられることである。それと同時に、長年にわたって、世界中の多くの地域で聖徒たちに奉仕できた特権を神に感謝したい。この注解書によって、「モーセの律法と預言者と詩篇」（ルカ二四・44）によって語られた神の御子、私たちの主イエス・キリストに栄光が帰されるように。

今一度、この書を、真実で愛すべき、わが長き人生の伴侶（はんりょ）イーデスにささげる。

二〇一〇年　九月

東京・府中市にて

ジェームズ　B・カリー

伝道者の書

はじめに

英語の「Ecclesiastes」(「伝道者の書」のこと)は、「七十人訳」(ギリシャ語訳旧約聖書)の翻訳者たちがつけた書名(「エクレーシアステース」)を音訳したものである。ヒエロニムス(紀元四〇〇年ごろ)はそれを「集会を召集する者」と訳したが、ソロモンがイスラエルの長老たちを集めて教えようとしたこと(Ⅰ列王記八章)を考え合わせると、この書名は不適切なものではない。しかし、ヘブル語名は「伝道者」であり、著者は七回、自分のことをそのように呼んでいる。彼は、この書の初めと終わりで、その称号を三人称で用いているが、一章の一節と一二節では、それが彼自身のことだと明言している。これについては、本文の注解のところで詳しく説明することにする。

旧約聖書の中央には、「詩歌」と呼ばれる五つの書巻が配列されている。そのように呼ばれるのには明確な理由があるが、この「伝道者の書」もそのうちの一つである。そのう